

§ 語学批評 §

生徒氏名     〇〇 〇〇    

課題名     心理英語中級 No.6    

《概評》

* 文法力	<input type="text" value="A"/>	B	C	D
* 語彙力	<input type="text" value="A"/>	B	C	D
* 構文把握力	<input type="text" value="A"/>	B	C	D
* 読解力	<input type="text" value="A"/>	B	C	D
* 和訳表現力	<input type="text" value="A"/>	B	C	D

《総合評価》

   B    C    D

とてもよくできています。

詳しくは本文中の赤を参照すると共に、解答例をご覧ください

下記の語句は、復習に際して、本文に説明を加えています。

,he remained open to new data,

insight=洞察 は、精神分析では特別専門的な意味をもつ用語です。

his patient's reports of childhood seductions were not literally true, but reflected their own early sexual fantasies.

一部の人に (some) 一部の人に (some)

he was emphatically not open to dissenting opinions.

経験を理解する (make sense of~ ~を理解する)

Competency 有能感

## Modifications of Freud's Theory

Freud modified his theories throughout his life. As a good scientist, he remained open to new data, revising earlier positions as new observations accumulated that could not be accommodated by the theory. For example, one of Freud's major insights was his realization that his patient's reports of childhood seductions were not literally true, but reflected their own early sexual fantasies. (Ironically, the increased sensitivity to child sexual abuse in recent year has led some to argue that Freud's original assumption about the reality of the seductions was probably more correct (Masson, 1984).) Similarly, he revised his theory of anxiety quite late in his career. Freud's theory has been further extended by his daughter Anna, who has played a particularly important role in clarifying the mechanism of defense (1937) and in applying psychoanalytic theory to the practice of child psychiatry (1958).

フロイトの理論の変更

○フロイトは、彼の人生を通して彼の理論を改変した。○良い科学者として、彼は新しいデータを公開し続け、理論によって対応できなかった観察が蓄積したため (as ~するにつれて、~した時) 以前の状態を修正した。

⇒下線部の open の訳は、意識としてはなるほどあっている、と思います。そもそも Open ⇔close というのは、そのことを受け入れるか、そのことを受け入れないかという態度を表す形容詞です。性格のビッグファイブのひとつでもあります、少し訳しにくいのが Open ですね。

例えば、フロイトの見識 (**insight=洞察**) のうちの一つは、彼の患者の幼少期の誘惑に関する報告は△実際には正しくない (直すと⇒文字通り正しいとは限らない) が彼らの幼い頃の性的な幻想を反映している、という気づきであった。

⇒下線部は部分否定のように訳すべきですから、あっさり否定してしまうと全否定のようになってしまいます。そうすると意味が違ってしまいますので、要注意。

(○皮肉にも、近年子供への性的虐待への注意の増加は、一部の人に (some) フロイトの誘惑の現実味についての理論はおそらくより正しかったという議論を導いている。) ○同様に、彼は彼の不安に関する理論をキャリアの晩年に修正した。○フロイトの理論は、彼の娘のアンナによってさらに拡張され、アンナは防衛機制の解明や (1937 年)、子供の精神病治療の実践 (⇒児童精神医学の実践) に精神分析理論を用いること (1958 年) に関して特に重要な役割を果たした。

But if Freud was open to new data, he was emphatically not open to dissenting opinions. He was particularly adamant that his colleagues and followers did not question the libido theory and the centrality of sexual motivation in the functioning of personality. This dogmatism forced a break between Freud and many of his most brilliant associates—some of whom went on to develop rival theories that placed more emphasis on motivational processes other than sexuality. These former associates included Carl Jung and Alfred Adler, as well as later theorists such as Karen Horney, Harry Stack Sullivan, and Erich Fromm.

しかし、フロイトは新しいデータを公開したとしても、彼は断固として反対意見 ×意見に反対することにはオープンではなかった。

⇒Dissenting は形容詞的働きの現在分詞で、opinion を修飾しています。反対する意見には open ではない、つまり断固として反対意見を受け入れなかった。

○彼はとても頑固で、彼の同僚や弟子たちはリビドー理論や性格の機能における性的動機  
の中心性について意義を唱えなかった。

⇒頑固で、異議を唱えることが出来なかったぐらいの訳のほうがわかりやすい。

○この独断主義はフロイトと彼の多くの素晴らしい仲間たちとの断絶を強い、その仲間たちの何人かは、性的関心よりも動機づけの過程により重点を置いた、フロイトに対抗する理論の発展を進めた。○これらの以前の仲間たちの中にはカール・ユングやアルフレッド・アドラー、また、カレン・ホーナイやハリー・スタック・サリヴァン、エーリヒ・フロムのような後の理論家たちも含まれていた。

These dissidents and other, more recent psychoanalytic theorists all place more stress on the role of the ego. They believe that the ego is present at birth, develops independently of the id, and performs functions other than finding realistic ways of satisfying id impulses. These ego functions are learning how to cope with the environment and making sense of experience. Ego satisfactions include exploration, manipulation, and competency in performance. This approach ties the concept of ego more closely to cognitive processes. ○これらの反対者や他の、より最近の精神分析的理論家たちは皆自我の役割に重きを置いている。○彼らは、自我は生まれた時に存在し、イドとは独立して発達し、イドの衝動を満たす現実的な方法を見つけ出すという機能以外の機能を果たすと信じている。○これらの自我の機能は環境にどのように対処するかということを選び、経験を理解する(make sense of～ ～を理解する) ×経験の感覚をつくることである。○自我の充足は、機能の実行における探求や巧妙な操作、適格性（有能感）を含む。○このアプローチは、自我の概念と認知の過程をより近く結びつける。

## No. 6 Modifications of Freud's Theory

フロイトは、彼の生涯を通して自らの理論を修正した。高名な科学者として、彼は新しい観察報告が蓄積すると、理論に受け入れられないとき、初期の見解を訂正しながら新しいデータに寛大であった。例えば、フロイトの主な洞察の1つは、幼児期の誘惑に関する彼の患者の報告は正確には真実ではなく、彼ら自身の初期の性的幻想を反映していた、ということを経験したことであった。(皮肉なことに、近年、子どもの性的虐待への敏感さが強まっていることが、誘惑の事実に関するフロイト独自の仮説がおそらくより正しいのだ、ということを経験づけるいくつかのものを導き出している (1984, Masson マッソン)。同様に、彼は自身の経歴のかなり遅くになって、不安に関する自身の理論を訂正した。フロイトの理論は、彼の娘アンナによって、さらに広がった。彼女は防衛のメカニズムを明らかにすることにおいて、(1937年)そして子どもの精神医学の実践に、精神分析学的理論を応用させることにおいて (1958年)、特に重要な役割をになった。

しかし、たとえフロイトが新しいデータに寛大であったとしても、彼は反対意見には著しく寛大ではなかった。彼は特に頑固であったので、彼の同僚や弟子らは、リビドー理論やパーソナリティの働きにおける性的動機づけの中心性(支配)に疑問を投げかけなかった。特に堅固であった。この独断主義が、フロイトと彼の最もすばらしい仲間たちの多くとの間に分裂を引き起こした。—その仲間たちのうち数人は、性的関心よりも動機づけの過程に、より重点をおいた、(フロイト理論とは)対抗的な理論を発展させ続けた。これらの後の理論家、カレン・ホーネイ、ハリー・スタック・サリバン、そしてエリッヒ・フロムたちと同様に、以前の同僚には、カール・ユングやアルフレッド・アドラーが含まれていた。

これらの反対者や、その他のもっと最近の精神分析学的理論家たちは、全て、自我の役割をより強調している。彼らは、自我は生まれたときから存在し、イドとは無関係に発達し、イドの衝動を満足させる現実的な方法を見つける以外の、機能を実行するということを信じている。これらの自我機能は、どうやって周囲の状況をうまく処理するか、ということを経験すること、そして経験を理解することである。自我を満足させることは、(物事を)実行することにおいて、探究すること、操作すること、そして十分な能力のあること、が含まれている。このアプローチは、自我の概念をより綿密に、認知過程に結びつけている。